

LOUIS VUITTON



WEDNESDAY, AUGUST 12, 2026 – 10:30AM PST / 7:30PM CET

報道解禁日時：2026 年 8 月 12 日（水）

午前 10:30 PST（米国太平洋標準時） / 午後 7:30 CET（中央ヨーロッパ時間） /

日本時間 2026 年 8 月 13 日（木）午前 2 時 30 分

Contact – Deb Pollack, deb@singervehicledesign.com +1.805.320.9248

日本国内お問合せ先：コーンズ・モータース株式会社 info.singer@cornes.jp

ルイ・ヴィトン、シンガーとともに走り出す

「旅の真髄(こころ) | Art of Travel」というフィロソフィーに導かれ、ルイ・ヴィトンはその卓越した専門知識とサヴォアフェール（匠の技）を、特別な自動車プロジェクトへと注ぎ込みます。クラシックなポルシェ 911 の極めて高度なビスポークレストアで知られるカリフォルニアのシンガー・ヴィークル・デザインとの密接なコラボレーションにより、ルイ・ヴィトンとシンガーは本日、2 台の特別な車を共同で発表いたします。

1 台目の「Porsche 911 Reimagined by Singer - Classic」は、ルイ・ヴィトンのために共同制作された特別なカラーリング（サフラン、コバルトブルー、イエローというメゾンを象徴するカラー）を纏っています。対となる 2 台目の「Porsche 911 Reimagined by Singer - Classic Turbo」は、ルイ・ヴィトンのウィメンズ・コレクション アーティスティック・ディレクターであるニコラ・ジエスキエール（Nicolas Ghesquière）が構想したカブリオレです。ボディはカルケール・リュテシアンホワイトで仕上げられ、洗練された貴重なウッドトリムが添えられています。どちらの車両もビスポークで仕立てられたルイ・ヴィトンのクリエイションで彩られ、すべての旅を、人生を愉しむ芸術そのものを讃える、かけがえない体験へと変えていきます。

「タンブール」ダッシュボードクロック：未だかつてない自動車冒険の原点

ルイ・ヴィトンとシンガーのコラボレーションによって誕生したこの自動車レストア・プロジェクトは、カリフォルニアのシンガー社との対話から始まりました。同社は自動車の世界において先見の明を持ち、妥協のないパーソナライゼーションで高い評価を得ています。

ジャン・アルノー（Jean Arnault）／ルイ・ヴィトン ウォッチ・ディレクターは

「このユニークで素晴らしい冒険は、シンガーによってリイマジンされる 1 台のクルマのダッシュボードクロックの制作依頼から始まりました。スイスにある当社の時計製造拠点『La Fabrique du Temps Louis Vuitton | ラ・ファブリク・デュ・タン ルイ・ヴィトン』でのクロックのデザインおよび制作に加え、このシンガーとのコラボレーションが車両のあらゆる機能要素のパーソナライゼーションにまで広がりを持って取り組めることはすぐに明白になりました。当社のレザーノウハウと時計製造技術を通じてそれらを一層引き立てるのです。」

ロブ・ディキンソン（Rob Dickinson）／シンガー 創業者 兼 代表取締役会長は

「ルイ・ヴィトンが選択した仕様により、私たちは何十年もの経験を通じて培われてきた伝統的な技術や手法に触れることになりました。彼らはその尊いブランド、伝統、そしてビジョンを私たちに託してくれました。ふたつの世界を融合させることができたのは、純粋な喜びです」

写真は下記から御覧いただけます。 [IMAGES](#)

プロジェクトの中心となるのは、取り外し可能でデスククロックにも変換できる機械式タイムピースです。そのデザインは、特徴的なケースフォルムとベゼルに刻まれた 12 個の「LOUIS VUITTON」の文字で知られるアイコンウォッチ「タンブール」からインスピレーションを得ています。コックピットに組み込まれた際、ルイ・ヴィトンのこの車との関わりがこのタイムピース 1 つにとどまらないことはすぐに明確になりました。インテリア全体の絶対的な調和を確保するため、技術的・美学的に大きな挑戦であったメーターパネルの再設計が不可欠となったのです。一見シンプルに見える作業ですが、それには 1 年におよぶ不屈の作業を要しました。メゾンのデザイナーたちはスピードメーター、タコメーター、各種ゲージを含む細部をリイマジンし、針、文字盤の仕上げ、インデックスシステムに至るまで「タンブール」ラインのグラフィックコードを取り入れました。鮮やかなコバルトブルーのヒューに輝くオレンジの文字をアクセントに効かせたデザイン言語は、時計製造の専門知識と自動車産業の厳しい要求との間で完璧なバランスを保っています。

ルイ・ヴィトンの「旅の真髄(こころ) | Art of Travel」の美学にインスパイアされ、このプロジェクトは車両全体を完全にリイマジンするまでに至りました。「目指したのは、シンガーの建築的でタイムレスなデザイン言語と、洗練された素材、旅、そしてスタイルの表現を特徴とするルイ・ヴィトンの文化との完璧な融合です」とオクターヴ・シャニー（Octave Chany）／シンガー プロジェクト・リードデザイナーは説明する。このユニークなクリエイティブ・パートナーシップは、ルイ・ヴィトンにとって歴史的な「初」となります。メゾンがダブルネーム（コ・ブランディング）製品を制作することは史上初めてであり、シンガーにとっても同様に前例のない試みです。

ルイ・ヴィトンにとって、車は単なる移動手段を超えた存在です。それは親密な空間であり、個性の表現であり、「ライフスタイル」を支える柱です。ルイ・ヴィトンはそのビジョンを、光と自由に旅するノマドの精神から着想を得て、シンガーの「Classic」サービスを通じてリイマジンされたクーペと、「Classic Turbo」サービスを通じてリイマジンされたカブリオレという 2 つの形で表現することを選びました。カリフォルニアの自由な精神を取り入れたこれらのクリエイションは、メゾンの伝統と DNA に深く根ざしており、旅そのものが「動く芸術作品」となる体験を提供します。

「このコラボレーションは、『真のラグジュアリーとはクラフツマンシップ、オーセンティシティ、そして妥協なき細部へのこだわりによって定義される』という共通の信念を持つ 2 つの組織を結びつけました。ルイ・ヴィトンの誇る 172 年の伝統とサヴォアフェール(匠の技)を託され、それらの技術を私たちの仕事に統合できたことは、シンガーで働くすべての人にとって名誉なことです。

ルイ・ヴィトンは『旅の真髄』を表現することに焦点を当てた、非常に大胆で洗練されたデザインビジョンをもたらしてくれました。私たちのチームは、そのビジョンとシンガーのエンジニアリング、クラフツマンシップ、実行へのアプローチを統合し、両社に相応しい精度を達成するために互いに高め合いました。両チームがこの挑戦にどのように立ち向かったか、これ以上誇らしいことはありません。その過程で、クリエイティブなパートナーシップとして始まった関係は、相互のリスペクトと卓越性の追求の上に築かれた仕事上・個人上の真の友情へと変わりました。この 2 台の自動車はその関係の賜物であり、この絆なしにはどちらも誕生しませんでした」とメイゼン・フォワズ（Mazen Fawaz）／シンガー チーフ・ストラテジー・オフィサーは説明した。

A Porsche 911 Reimagined by Singer – Classic : ルイ・ヴィトンが表現する最も現代的な「Travel of Art | 旅の真髄(こころ)」

サフランとコバルトブルーの装いを纏い、トランクやサーフボード、スキー板を積載できる特別設計のルーフラックを備えたこの「Porsche 911 Reimagined by Singer – Classic」は、ルイ・ヴィトンが思い描いた仕様にリイマジンされ、ひと目でその目的が明確にわかります。この車は壮大な旅のためにデザインされました。流麗でエアロダイナミクスなシルエットは、その優れたパフォーマンス性能を自然と物語っています。しかし、ルイ・ヴィトンが意味する「旅の真髄」を何よりも雄弁に物語っているのは、そのディテールです。入念なクリエイティブな作業の結晶として、すべての要素とコンポーネントは自動車業界ではめったに見られないようなサヴォアフェール(匠の技)の基準を満たすようリイマジンされています。

1 世紀半以上にわたりメゾンのアーカイブに存在し、20 年以上パッケージングに使用されてきたサフランカラーは、シンガーの初期のコミッションと深く結びついた象徴的な色「バハマ・イエロー」とも共鳴します。さらに、このカラーは 1924 年にシトロエン用にデザインされたトラベル・トランクへのオマージュでもあり、モータースポーツや自動車の世界と特別な繋がりを持っています。当時のトラベルケースにもすでにコバルトブルーの補強材が内部に使用されていました。よって、この 2 色の組み合わせは、メゾンのレザーグッズやトランクのサドルステッチに使用される鮮やかなイエローの糸とともに、ルイ・ヴィトンのアイデンティティを格別に表現しています。

1900 年のゴードン・ベネット・カップで国別のカラーリングシステムが導入されて以来、モータースポーツにおいてカラーは重要な識別手段でした。このクラシックモデルは、メゾンの包装用リボンやハンドルからインスパイアされた特徴的なコバルトブルーのデモンストレーションタイヤを備え、控えめでありながら繊細さによって際立つ、ひとつの視覚的なシグネチャーを完成させています。このアプローチはリアのエンジンエアインテークグリルにも反映されており、「L」と「V」のイニシャルで構成された幾何学的なモチーフが控えめに組み込まれています。

インテリアには当然ながらルイ・ヴィトンのシグネチャーが施されています。キャビン全体は、メゾンで最も使われるレザーの 1 つである VVT レザーから着想を得たナチュラルな色合いのレザーで包まれています。ブランドを象徴するラゲージやコーティングキャンバスバッグのハンドル、ショルダーストラップ、トリミング、ラベルに使用されているこのレザーは、ルイ・ヴィトンを最も象徴するシグネチャーの一つです。シー

トにはルイ・ヴィトンの熟練職人が厳選したレザーが使用され、シンガーのチームによってインテリアのレザー施工がされました。細部に至るまで、細心の注意が払われています。ドアハンドルの縁には、ルイ・ヴィトンのバッグと同じ縁染めの技術が施されており、ステッチには黄色い糸が使用されています。シートやフロントトランクのトリム、そしてリアのエンジンルームにあしらわれたダイヤ柄のエンボス加工は、ルイ・ヴィトンのトランクの内部を象徴する「マルタージュ」モチーフを想起させます。運転席と助手席の快適性を確保するため、シートには通気孔（アイレット）が施されています。職人の手作業で一つひとつ仕上げられたこの通気孔には、ルイ・ヴィトンのアイコンであるモノグラム・フラワーが描かれており、フロントガラスのデザインと響き合うこのモチーフは、サンバイザーやヘッドレストにもあしらわれています。

この細部へのこだわりは、ルイ・ヴィトンとシンガーの職人たちにおける指針となりました。車両のあらゆるパーツが、現代の自動車デザインにおいて類を見ない美への追求を具現化しています。一般的な車のインテリアに使われるプラスチック製パーツはすべて、上質な自然素材を用いて手作業で仕立てられたコンポーネントへと置き換えられています。

調整ダイヤル・コントロールスイッチ、ロックノブ、プルレバー、エアベントなどは、伝統的な工芸技術を用いて主にロジウムメッキを施した金属で作られており、高級時計の製造と比較できるような仕上がりを誇ります。

手触り（触感）はもちろん、光の反射や表情といった要素に至るまで、時計製造におけるポリッシュ仕上げやサテン仕上げのサヴォアフェール(匠の技)を取り入れ、細部まで計算し尽くされて最適化されています。独特の色彩は、アルマイト処理（陽極酸化処理）や電化メッキによって生み出されたものです。

「このようなプロジェクトがエキサイティングなのは、自動車エンジニアリングの領域において制約に挑み、美学、アイデンティティ、クラフツマンシップの新たなアプローチを探索できる点です。すべての素材の切り替え、金属の反射、ローレット加工の表面、メカニカルな相互作用、グラフィック要素に至るまで、ほぼ顕微鏡レベルで綿密に検討されました」 オクターヴ・シャニー Singer プロジェクトリードデザイナーが語る。

こうした極限へのこだわりは、エンジン構成部品の仕上げに至るまで車両全体に貫かれており、シンガー社のチームによって、これまでにない最高水準の美しさと精緻さへと高められています。たとえば、燃料用およびオイル用のキャップの刻印には、ルイ・ヴィトンの時計に使われている特徴的なタイポグラフィが採用されています。このように、車のあらゆる要素がひとつひとつ綿密に設計され、完全ビスポーク

で作り上げられました。このアプローチは、この類稀なる特別な車両に備えられたキャビン内の装備やアメニティにも、自然な形で受け継がれています。

「この 2 台の車両の製作において、ルイ・ヴィトン は初めてそのサヴォアフェール（巧の技）匠の技の全貌を結集させました。トランク製造、レザーグッズの職人から、ファッション、フットウェアチーム、そして『ラ・ファブリク・デュ・タン ルイ・ヴィトン』の時計職人に至るまで、ルイ・ヴィトンのあらゆる部門がこの前例のない分野横断的な試みに貢献しました」ジャン・アルノ

「Porsche 911 Reimagined by Singer – Classic」専用カプセルコレクション：旅のために仕立てられたスタイル

「旅の真髄」を真に祝福するため、ルイ・ヴィトン は車体だけでなくオーナーの装いも精巧に仕立てました。キャビンと共鳴するミリシム（Millésime）レザーを使用し、車体と同じサフラン、コバルト、イエローで仕上げられたこのコレクションは、単なるワードローブではなくインテリアの拡張として機能します。

ドライビング・ウェア： そのスタイリングはドライバーから始まります。ナチュラルなシボ感のあるレザーで仕立てられたレーシングジャケットには、パンチング加工を施した LV ジップと、胸元に 3 つのモノグラム・フラワーのアイレットをあしらいました。このモチーフは、車両のシートやサンバイザーから直接取り入れられたものです。シルクの裏地には控えめに刺繍のフラワー柄が繰り返され、着用した人だけが楽しめるディテールとなっています。インナーには、上質なコットンとシルクを混紡したヘビーウェイトデニムのストレートジーンズをコーディネート。履き込まれた風合い（ユーズド感）を出すウォッシュ加工を施し、コントラストの効いたステッチ、刻印入りのエイジングゴールドボタン、そしてバックウエストにあしらわれた「Louis Vuitton x Singer」のタブで繊細なアクセントを添えています。ドライビングシューズには 2 つの異なるスタイルを用意。サイドに LV イニシャルをあしらいうバーペブルソールを備えたドライビングシューズ「LV ラリー」、または、深みのあるブルーのキーベル（キーカバー）に「Louis Vuitton Singer」プロジェクトの刻印とモノグラム・フラワーのアイレットを配し、ヘリテージのアクセントを効かせたハイキングスタイルの「LV リミックス・ダービー」から選択できます。ドライビンググローブはパンチング加工を施したナチュラルカラー、またはコバルトブルーの 2 色展開。最後に、カーフレザーのトリミングとリベット留めのバイザーをあしらった、カーボン & グラスファイバー製のジェットヘルメットがスタイリングを完成させます。

車の鍵（キー）に至るまで、特別にあつらえたビスポーク仕様となっています。6本の鍵を収められるキーケースを開くと、「Louis Vuitton x Singer」の刻印が現れます。または、メゾンを象徴するブルーを際立たせたクロシェット（キーリング付きキーホルダー）を選べば、バッグのハンドルに巻き付けたり、首から下げて身につけることも可能です。車両の書類を収納するポシェットは、1950年代のビジネス用書類ケースのフォルムをベースにしており、内側にはコントラストの効いたブルーのライニングと、ジッパー付きのペン収納用コンパートメントを備えています。

ラゲージ類はすべて、車両専用にフィットするようカスタムメイドされています。1950年代のデザインに着想を得たヘルメットバッグはビスポークのヘルメットを収納でき、その金具は燃料キャップの色調に合わせています。1892年にメゾンが初めてカタログに掲載したスーツケースの系譜を継ぐ「Bisten」は、ブルーのハンドルとネームタグがあしらわれ、衣類を折らずにシワなく収納できます。1930年の登場以来メゾンのアイコンであり続ける「キーボール Keepall」は、1週間分のワードローブをキャビン内に収納可能。さらにフロントトランク用の2つのバッグは、車のフロント部分に完璧に収まるフォルムに設計されています。

早くも1897年には、先見の明を持ったジョルジュ・ヴィトンが自動車専用のトランクを提案していました。それらは車両のリアやルーフにしっかりと固定できるよう設計されており、当時としてはまさに革命的であった特許取得の専用ロックが装備されていました。革新性は機能性にとどまらずそのデザインにもあり、積み重ねやすいように平らに作られたトランクは、空間を最大限に活用し実用性を高めていました。このデザインの専門知識を補完したのが、防水性と柔軟性を兼ね備えた革新的な素材「ヴィトナイト（Vuittonite）」キャンバスです。車のボディカラーに合わせて染色することも可能で、完全なビスポークを実現しました。軽量で順応性に優れたルイ・ヴィトンのオートトランクは、車体の輪郭やカーブにぴったりと沿うように作られていたのです。1905年以降はラインナップがさらに充実し、ドライブ先でのランチ用ピクニックキットや、スペアタイヤの隙間を賢く利用して帽子や身の回りの品を収納できる画期的な防水バッグ「サック・ショーフル（ドライバー用バッグ）」など、多彩なアクセサリが登場しました。

車のフォルムに完璧にフィットするよう作られた特別仕様のルーフラックは、旅に必要なすべてのアイテムを積み込むことができ、ルイ・ヴィトンのサーフボードもセットされています。フランスのアンジェで職人の手作業により成形された後、大西洋沿岸へ運ばれて樹脂コーティングとフィンの取り付けが行われた

このサーフボードには、明るいブロードオークと深みのあるウォールナットを用いたモノグラムの寄木細工（マルケトリ）が施されており、完成までに膨大な職人技の時間が費やされています。

さらに、一对のスキー板がこのラインナップを締めくくります。フレンチアルプスにてウッド、チタナール（高張力アルミニウム合金）、スチールを用いて作られたこのギアは、天然素材と高機能素材を組み合わせることで、優れた強度、レスポンス性、そしてしなやかな操作性を実現しています。

これらのアクセサリーが組み合わさることにより、自動車と旅のための実用的な装備を手掛けてきたルイ・ヴィトンの歴史的ノウハウが、現代적かつパーフェクトな形で体现されています。

「Porsche 911 Reimagined by Singer – Classic Turbo」ファッションと自動車デザインが融合する場所

クーペのデザインが確定すると、ルイ・ヴィトンとシンガーのクリエイティブなコラボレーションはさらに強化され、新たなプロジェクトへと発展しました。それは、ルイ・ヴィトンのウィメンズ・コレクション アーティスティック・ディレクターであるニコラ・ジェスキエールの先見性あるリーダーシップのもとで進められた、ターボチャージャー搭載のカブリオレの開発です。

ホワइटのボディワークにブラウンのアクセントが密かに効かされたこの車両は、レザーとウッドが調和するインテリアを漂わせ、クラシックなモーターボートの気品に対する洗練されたオマージュを表現しています。

「自動車デザインは、私の中にずっと生き続けている情熱です。シンガーとのコラボレーションは、この魅力的な世界と再びつながる機会であり、真に特別な自動車を探求する素晴らしい機会となりました」とニコラ・ジェスキエールは語ります。

「Porsche 911 Reimagined by Singer – Classic Turbo」は、マリンとオートモーティブという2つの異なる世界を融合させたいという願いを通じ、ニコラ・ジェスキエールのビジョンを体现しています。対比する要素をコレクションに取り入れることが多い彼のデザインアプローチが、この融合に直接反映されているのです。尽きることのないインスピレーションの源である自動車は、ルイ・ヴィトンへの就任最初となる記念すべきキャンペーンの撮影が象徴するように、彼が同メゾンに参画して以来、コレクションで繰り返し登場するテーマとなっています。

シンガーのチームと密接に連携しながら、ニコラ・ジェスキエールは自身が思い描く理想の車のビジョンを形にしました。それは、世界や自然、そして人生の喜びに開かれた、太陽の光と深みを肌で感じら

れるような車です。カブリオレという選択は、彼にとって必然でした。プロジェクトの初期段階から、彼はこの車を、エレガントでモダン、かつ揺るぎない存在感を放つ「ルイ・ヴィトンの精神の具現化」として描き出していたのです。そのため、このカブリオレは力強いと同時に五感を刺激し、洗練されたスタイリングと卓越したパフォーマンスを兼ね備えています。ターボモデルを象徴する大型リアスポイラーがその圧倒的な走りを物語る一方で、リアのラゲージコンパートメントは息をのむようなエンジニアリングの仕上がりを見せ、クラシックなモーターボートのタイムレスな美しさと呼応するチーク材に着想を得たウッドデッキを露わにします。

カラーリングには、セーヌ川を見下ろすポンヌフの歴史的なメゾン本社をはじめ、パリの街並みを形作ってきた白色石灰岩「カルケール・リュテシアン」を思わせるホワイトを採用。繊細なジュエリーのように車体を彩る上質なゴールドのアクセント、そしてレザーとウッドのナチュラルな色調が組み合わせられ、ニコラ・ジェスキエールならではの洗練された美意識と、ルイ・ヴィトンが誇る「旅の真髄（Art of Travel）」に深く結びついたライフスタイルを表現しています。

クーペと同様に、機能的なパーツであれ装飾的なディテールであれ、車両のあらゆる要素がルイ・ヴィトンとシンガーのチームによってリイマジンされています。細部への徹底したこだわり、厳選された素材、受け継がれるサヴォアフェール、そして仕上げの精度に至るまで、一切の妥協はありません。バンパーをはじめとする様々な木製パーツを組み込んだコンポーネントはすべてが唯一無二であり、プロジェクトに携わったデザイナーやエンジニアにとっても新たな挑戦となりました。

シンガーのプロジェクト・リード・デザイナー、オクターヴ・シャニーは次のように語ります。

「自動車デザイン、高級時計製造、そしてレザーワーク（革製品）の世界の間で築かれたディープな対話こそが、これら 2 台の車を特別で卓越した存在に仕あげています。ニコラ・ジェスキエールとのコラボレーションは、コンセプトそのものを引き上げるために不可欠なものでした。プロポーションやシルエット、そして文化的表現に対する彼の優れた感性は、従来の自動車デザインの枠組みを遥かに超えた視点をもたらしてくれたのです」

ビスポークのダッシュボードクロックは、ステアリングの奥にあるメーター類には組み込まれていません。その代わりにナチュラルレザーで覆われたセンターコンソールの中央に配置され、温かみのあるゴールドのメーター類、ボディと同色で仕上げられた文字盤、そして色調を合わせたゴールドのイグニッションキーが、インテリアとエクステリアとの間にシームレスな対話を生み出しています。ダッシュボードにはルイ・ヴィトンのシグネチャーが記され、日が暮れるとテールランプの内側にもそのデザインが浮かび上がります。また、ステアリングホイールにあしらわれた特徴的なレザーパッチは、ニコラ・ジェスキエールを象徴するディ

テールの一つであり、メゾンのアイデンティティを控えめながら力強く際立たせています。機能パーツはすべて金属で仕上げられており、クラシックカー同様、仕上げや表面処理に細心の注意が払われ、高級時計製造の精度と完璧に調和しています。ダッシュボードクロックの下にあるシフトレバーのトリムには、ナチュラルレザーの引き紐があしらわれ、名品バッグ「ノエ」のシルエットを彷彿とさせます。

テクニカルウッドのシェルにレザーを張ったシートの背後には、この車両特有のフォルムに合わせて専用開発されたラゲージコンパートメントが広がっています。このスペースには、ランナバウト（高級小型艇）のデッキと同じ技法を用いたニス塗りのウッドが採用されています。車にぴったりと収まるよう作られたレイ・ヴィトンのビスポークラゲージはもちろん、海洋の世界に着想を得た軽量のソフトトップ（折りたたみ式屋根）を収納する十分なスペースが確保されています。

ウッドパネルはリアのエンジンルームやフロントトランクの内側にも施されています。フロントトランクには、3つのケースを組み合わせることで機能的かつエレガントに仕立てられた収納スペースを形成するビスポークトランクが収められています。フロントフードとリアフードにあしらわれたピンバックル付きのレザー製固定ストラップは、モータースポーツの伝統、トランク製造の歴史、そして時計のストラップを繊細に連想させます。

Porsche 911 Reimagined by Singer – Classic Turbo のためのエクスクルーシブなカプセルコレクション：洗練された旅のためのビスポークコレクション

この類稀なるターボチャージャー搭載カブリオレのドライビング体験をより高めるため、ニコラ・ジェスキエールはすべてのアイテムが車両のデザインと呼応するエクスクルーシブなカプセルコレクションをデザインしました。ホワイトのボディワーク、ウッドの質感、まるでジュエリーのように身に纏うゴールドといったカブリオレ独自の要素を取り入れることで、ドライバーが携えるものや着用するものが、単に車に添えるものではなく、車そのものの「延長線」となるように仕立てられています。

時間はひとつの場所にとどまりません。コンソールの中心に配されたダッシュボードクロックは、手首に纏う「タンブール オートマティック」とペアになります。この 40mm のタイムピースはセラミックとイエローゴールドで仕上げられ、ピンが見えないシームレスなブレスレットを備えています。どちらも身につけていない時には、1896年にジョルジュ・ヴィトンが初めて手がけ、本作のために2ペアで復刻されたトランク「コフレ・トレゾール」に収められます。ひとつはクッションの上で腕時計を優しく守り、もうひとつはシフトレバ

ーの脇にいつでも装着できるようダッシュボードクロックに格納します。マグネット式のスナップ留めを配した両開きのより小さなケースは、腕時計単体を持ち運ぶためのものです。

ドライバーのためにあつらえられたパラシュートシルクのビスポークスーツ（セットアップ）は、いかなるワッペンにも頼らず、立体的な V 字型の縫い目によってメゾンのイニシャルを表現。ジッパーの引き手やスナップボタンには控えめな刻印が施されています。編み込みレザーで手に吸い付くようにフィットするドライビンググローブには、手作業でペイントされたモノグラムのスナップが 1 つあしらわれ、キャビンを彩るウッドの質感と美しく調和します。足元の「LV スニーカーナ」は低く軽やかで、サイドのカットアウト部分にのみシグネチャーが覗きます。仕上げとなるゴールドとアセテートのサングラスは、片方のレンズの下にモノグラム・フラワーを密かに潜ませ、カーフスキン、カーボン、グラスファイバー、そしてニス塗りのクリームカラーで仕上げられたヘルメット（タンカラーのバイザー付き）がスタイリングを締めくくります。

ドライバーが身に纏うものと同様に、車に積み込むアイテムにも細心の注意が払われています。ゲームントバッグはハンガーとネームタグを内側に備え、キャビン内でフラットに折りたためる仕様です。「アルマ」は旅にふさわしいしなやかなフォルムへと生まれ変わり、「エクスプレス」はその内側にトランクのライニングを思わせるマルタージュ（格子柄）を復活させています。そして「ノエ」は、シフトレバーのデザインにも使われた巾着型のシルエットを描きます。「クルーザー」はグローブとサングラスがちょうど収まるコンパクトなサイズ感で、ハンドルを開けたまま固定できるループを備えています。「プティット・マル」は車体の緻密なディテールと美しく呼応する木材から切り出されており、その温かみのある色合いは車両を象徴するカラーパレットと完璧な調和を奏でます。そして、この世界に一台だけの特別な自動車の書類は、専用のフラットケースに収められて旅を共にします。

大型のラゲージ類は、車体の構造に合わせて作られています。フロントトランクにあらかじめセットされた 3 部構成のトランクは、旅の用途に応じて 3 つの独立したケースとして取り出すことが可能です。そして「キーポル 45」には取り外し可能なカバーが備わっており、車が専用カバーを被って静かに佇むように、バッグの保護性能を高めると同時にその表情をガラリと変えてくれます。

鍵にも、それが解錠する車と同等の重みが与えられています。キーホルダーには本コレクションのシンボルである「LV ブレイゾン」があしらわれ、「モノグラム・ヘリテージ」ネックレスはチェーンからレザーのキーベルとメダルを吊り下げ、愛車の鍵を胸元に身につけられるように仕立てられています。これから手にす

る鍵のためにミリ単位でサイズ調整された最も小さなポーチにだって、コントラストを効かせたイエローのステッチで完璧に仕上げられています。

ルイ・ヴィトンと自動車のエレガンス：未来への原点回帰

実のところ、1854 年の創業以来、ルイ・ヴィトンは「旅の世界」と分かちがたく結びついており、交通手段の進化とともに歩んできました。19 世紀後半以降、自動車の台頭はメゾンにおける革新の温床となり、ドライバーたちに向けて、実用的でありながら洗練された多彩なトランク、ラゲージ、そしてアクセサリーを生み出すきっかけとなったのです。

1909 年、ルイ・ヴィトンの孫である双子のピエールとジャン・ヴィトンはさらに一步を踏み出し、当時兄弟のガストン・ルイ・ヴィトンが率いていたメゾンの製品を披露するため、自動車メーカーのスタビリア社（Stabilia）が製造したスポーツ用シャシーをベースに自ら車を設計しました。モスクワを経由する偉大な「パリ〜北京」および「ニューヨーク〜パリ」の大レースに参加するチームに装備を提供したのち、メゾンは第一次世界大戦中に救急車の車両供給を実施。その後、両大戦間期を通じて最も名高い自動車デザイナーや一流の自動車メーカーと協業し、数々の象徴的なモデルに向けて専用ラゲージを提供しました。1940 年代以降、産業の標準化（大量生産化）に伴いオーダーメイドの車体やそれに合わせたビスポークトランクの時代は終わりを告げましたが、ルイ・ヴィトンは車のトランク（荷室）に完璧に収まるカスタムメイドラゲージをはじめとするスペシャルオーダーを受け続けました。

ルイ・ヴィトンと自動車の世界との繋がりは、デザインと伝統の双方を称える一連の画期的な取り組みによって、1980 年代から 1990 年代にかけても受け継がれました。メゾンはコンセプトカーのために、現代的でビスポークなトランクやラゲージを開発。パリのバガテル公園やその後のサン＝クルー、さらにはロンドンをはじめとするイギリス、そしてニューヨークのロックフェラー・センターで開催されたルイ・ヴィトン主催の自動車コンクール・デレガンス（Concours d'Élégance）は、多くの観客を魅了しました。また、「ルイ・ヴィトン・デザイン・アワード」は最も革新的なコンセプトカーを表彰し、世界規模で開催された「ルイ・ヴィトン・クラシック・ラン」ラリーは、旅の真髄を体現しながら、自動車の黄金期を愛する目肥えたコレクターやファンを熱狂させました。

クリエイティビティ、モダンティ、そして卓越性の絶え間ない追求によって特徴づけられるルイ・ヴィトンと自動車の世界との関係性は、今回手がけた2台の車両の制作プロセス全体を通じ、シンガー社との親密な対話を自然な形で育むこととなったのです。

Singer : 世界で最も重要とされるスポーツカーをリイマジンする

2009年にカリフォルニアで創業したシンガーは、「A Relentless Pursuit of Excellence / 卓越性への飽くなき追求」という哲学を掲げています。同社は、クラシックなポルシェ911のオーナーと協業し、その愛車をリイマジンすることで世界的な名声を確立しました。同社のアプローチは、3つの指針によって定義されています。「美しさ、クラフツマンシップ、そしてエンジニアリング」、「世界で最も象徴的なスポーツカーへのリスペクト」、そして「カリフォルニアとその自動車文化との深い繋がり」です。

シンガーのサービスにより、オーナーは公道やサーキットに向け、魅惑的でアナログなスポーツカーをレストアし、自分だけの特別な一台へとパーソナライズすることができます。同社は2つの拠点をもち、クラシックカーのレストアが行われたカリフォルニアの施設と、ターボ・カブリオレが仕立てられたイギリスの施設を構えています。

現在、シンガーブランドは世界中の愛好家コミュニティから支持されています。今年、その自動車界における影響力が認められ、イギリスで開催された権威ある「グッドウッド・フェスティバル・オブ・スピード」において、メインフィーチャーとして大々的に称えられました。ルイ・ヴィトンとシンガーのパートナーシップは、細部のすべてに意味が込められた、2台の特別な車両を結実させたのです。

卓越した技術の融合が生み出す、類まれなるシナジー

ルイ・ヴィトンとシンガーによる、唯一無二で前例のないコラボレーション。それは、単なるパートナーシップの枠を超えるものです。卓越性を追求する二つの世界が出逢い、深い交流を重ねることで、それぞれのメゾンが持つ独自のアイデンティティを、より鮮明に形づくっていきました。

「今回のコラボレーションは、互いに高め合い成長する実にユニークな体験となりました。このプロジェクトは私たちに新たな気づきと新鮮な視点をもたらしてくれたのです。そしてこの実りあるコラボレーションは、メゾンのあらゆる部門にわたるシナジーと情熱を浮き彫りにしました」とジャン・アルノーは説明します。

車両の本来の性能や機能性を損なうことなく、最高峰のクラフツマンシップを達成するという野心に突き動かされ、ルイ・ヴィトンとシンガーのチームは 2 台の車をリイマジンしました。シンガーの創作のベースとなった 2 台の象徴的なクラシック・ポルシェ 911 が持つタイムレスな個性的魅力と技術的なオーセンティシティを維持しながらも、両チームはそこに唯一無二で未来的な空気感を注ぎ込んだのです。

デザインにおけるあらゆる決断は、大胆な革新と熟慮されたオマージュとの絶妙なバランスの賜物でした。すべての選択において、エンジニアリング、耐久性、人間工学、そしてデザインに求められる厳格な要件と完璧に調和し、実現可能であることが絶対条件とされたのです。

「実用的で機能的な自動車という本来のコンセプトに対して、誠実であり続けることが重要でした。美しさを追求するだけでなく、ルイ・ヴィトンの DNA に深く根ざしている『旅に対するエモーショナルな感覚』を表現し続けつつ、シンガーを象徴するピュアさ、ハンドリング性能、そして技術的完全性を維持する必要があったのです」と、シンガーのプロジェクト・リード・デザイナーであるオクターヴ・シャニーは付け加えます。

ルイ・ヴィトンとシンガーが互いの持つサヴォアフェールを結集し、リイマジンした 2 台の車は、パフォーマンス、品質、そして美しさによって突き動かされる Art of living を体現し、完璧さを追い求め続ける情熱の力強いマニフェストとなっています。

スペック概要

Porsche 911 Reimagined by Singer – Classic

- Type 964 クーペ シャシー
- サフランカラーの軽量カーボンファイバー製ボディワーク、速度作動式リアウイング装備
- 4.0 リットル 自然吸気 空冷 水平対向 6 気筒エンジン
- 6 速マニュアル トランスミッション
- 後輪駆動
- カーボンセラミック ブレーキシステム

Porsche 911 Reimagined by Singer – Classic Turbo

- Type 964 カブリオレ シャシー
- カルケール・リュテシアン ホワイトの軽量カーボンファイバー製ボディワーク、ホエールテール リアウィング装備
- 3.8 リットル ツインターボ 水平対向 6 気筒エンジン、水冷式インタークーラー付き
- 6 速マニュアル トランスミッションおよび選択可能なドライブモード
- 後輪駆動
- カーボンセラミック ブレーキシステム

Please Note

シンガーは、Porsche Cars North America, Inc.、Dr. Ing. h.c. F. Porsche, AG、Dr. Ing. h.c. F. Porsche, AG、およびこれらの会社とは一切関係がありません。F. Porsche AG は、Porsche Crest®、Porsche®、そして連邦政府に登録された 911 をはじめとするポルシェ車のモデル番号と名称、そして特徴的な形状を含む、登録済みおよび未登録の多数の商標を所有しています。Porsche Cars North America, Inc.、または Dr. Ing. h.c. F. Porsche, AG の商標名またはその他のマークに関する言及は、参照のみを目的としています。